

# 一寸光陰不可軽

## 人国記

世界で初めてロータリーエンジンを搭載した量産車「コスモスポーツ」が発売された昭和42年にマツダ(当時は東洋工業)へ入社した私は、平成21年に定年を迎えました。しかし、この時は「後進の指導に当たりたい」という思いがあり、「エキスパートファミリア」として会社に残ることにしました。

そして引き続き「ロードスター」と、新たに「RX-8」の主査代行を務めていました。その業務に当たる一方、社内をはじめ各地で講演に招かれる機会が増えていったんです。自分の経験を通してものづくりの楽しさを伝えるという、充実した日々でした。

ある時、自動車仲間の広島大教授から「学生の『就業力』育成につながる実務系教員を探している大学がある」という話を聞きました。講演活動で、とくに「科学離れ」の進む若い世代に

お島 孝雄 (62) ②

元マツダロードスター主査

語りかける意義を感じていたので「これはいい話だ」と思い、その教授が山口東京理科大(山口県山陽小野田市)に私を紹介してくれました。



取得した数々の特許証書を手には「経験者を若者たちに伝えたい」と話す貴島さん

退職後の「第2の人生」をどう過ごすか。クルマに携わった人間は、自動車評論家の道を選ぶ人も少なくありません。もちろん、意義のある仕事だと思いますが、私はなりたくありませんでした。

技術屋の立場からは、100点満点のクルマなどないことは分かっている。態度を明確にしづらい。偉そうなので態度を明確にしづらい。偉そうなので態度を明確にしづらい。偉そうなので態度を明確にしづらい。

# 若者たちに経験伝えたい

いでしょうかね。また、当時は国内や海外のメーカーからもいくつかオファーがありました。しかし、マツダの中で「他社に負けないクルマを」と躍起になっていた者がライバル会社に移るといことは、私にはできません。

そういう意味でも、「大学の教授として若者を指導する」という選択は、育ててもらった会社にも迷惑をかけず自分の経験を生かせる、という最良の道だったと思っています。

こうして、私は22年9月末にマツダを退職。10月から山口東京理科大に工学部の教授として在籍することになりました。

やがて、私のことを聞きつけたクルマ好きの学生たちがやってきて「自動車部を作りたい」と言ってきたんです。これはうれしい申し出でしたね。

私は就業力向上のために、学生たちがレーシングカーを開発してレースに臨む「全日本学生フォーミュラ大会」という取り組みへの参加を考えていたので、自動車部で参戦することになりました。



九州・山口

産経新聞九州山口版は月ごめ購読料3000円の朝刊紙です。九州山口地域でもご自宅や会社に配達いたします。申し込みは下記のフリーダイヤルか、専用サイトで。

ニュースのご連絡は九州総局

TEL 092(741)7088 FAX 092(726)2572 kyushu@sankei.co.jp

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通5-23-8 サンライトビル3階

山口支局

TEL 083(923)3333 FAX 083(923)3334 yamaguchi@sankei.co.jp

〒753-0074 山口市中央3-6-2

購読のお申し込みは

0120(34)3733 www.sankei9.com

販売のお問い合わせは TEL 092(741)2323

広告のご用は TEL 06(6633)9474